

- 昭和からの意い意い乳レポート山陽堂だより 52 11月13日(木)
- 新しき萌場に来たり 2013年11月13日 岡野雄一著 27日(木)
- 三日可さぬ 『ヘコロスの母』に
吾ら言ふ、声のみとおと
として (S.36)
- 幼子か石積みゆかき 悲(叶)て
立く妻の傍に罪深く居る (S.30)
- いひ難き悲しき宿題
夕暮飛遙り可かう。
酒店に入る (S.29)
- 底ニモる悲(叶)得て道行くに
人間の如き犬の眼に渴む (S.30)
- 幻聴幻覚に悩まされ
いた父を、今更に、今は「弱い心
の帝王主」と一言でには言えない
父。父は、仕事のストレスと
幻聴幻覚への恐怖と、酒と
体内に発散する暴力で、生きられ
ていった。醉(叶)暴怒する姿は今更
鮮明に脳裏に残る。さて父。
飲んでしまはらく快活になるやうが
なく間の、青年のような父は、己は2
臺(叶)日の一瞬の陽射(叶)ようこ
好(叶)つた。すぐに陽射には
消え、(叶)て(叶)ては泥酔してしま
う。父は歎息と哀れ
とに仙壇の前に座り、歎息を
求めようと、矢張り歌にのめり込んだ。
×以上、「ヘコロスの母」に会いに行く
文中下)、短歌は著者の父親の
作品。主人公「ヘコロスの母」に会いに
行くの中には、先に天国に逝る
父の人か、「ちよ(叶)」のあ(叶)さん
著者の会いにくるのを(叶)。それから
また(叶)感じます。
- ANYODA HOTEL
- 山陽書店 03-3401-1309
- 月~金 11~19時 週休
土 11~17時 新開
日祝 休
※山陽堂行けタス・スニフ
授業9時より 11月14日(木)12
18時まで。
- 漫画家の岡野雄一さんは「認知症」より「5エーブル」と
言葉を方から好んでおこないます。テレビ・作画のロス9母に
会いに行くのは、じつはちよ(叶)・叶(叶)さん。
可笑しくも切ない12年間を描いた作品集。
全国で下さる言語題を集め、ドラマや映画にもなった
へスケベーです。
- みんなの顔をしてみたえさんは、漫画家のゆき
「人生の重荷を下ろして」の名言によると、この顔と
ふります。これは、家族の老いや病に直面して、岡野さん
は、人生の希望をも失してしまった。
この漫画展では、岡野さんの解説と作品を
振り返ります。(やがて9月に会いに行く) (会の詳)
①ヘコロスの母に会いに行く日 昨年位か
新聞の記事などに下さり、この2つによく目には
していました。この2つに「父」、「下がるおじさん」
と思っていたのも99「父」、「おじさん」という行動
に納得せないでいました。ところが、この夏、2年前の
出版関係の集まりで、一緒に福岡の西日本新聞
社の本舗さんから山陽の堂と書かれてくれました。
そのときに初めて「ヘコロスの母」に会いに行くこと
担当編集者から未だ(叶)と知りました。なぜなら、(叶)
早速取り寄せ?、先に説いて、妹たちから口をそろえて
「可(叶)く...本(叶)ね」と言いました。未嫁の添いとお子さん
の昭和時代の戦争から始めたもの。子どものころ、家族?
い3人(叶)と(叶)つまつて、本(叶)でした。
おなじみの歌と歌詞を(叶)あります。主人公の「おじさん」
が(叶)おじさんと歌詞を(叶)あります。

ミシマ社ワ周年企画「東京トリーーム」出版記念

「Cocco 四東京トリーーム展」を終えて

Book
15752L

2013.10.29 ~ 11.9 12日間

Coccoさんの展示は、意表のつくりものでした。直筆の原稿を丁寧に並べて
かけてあります。この場所に身を置かなければわからない
独特の空間。天井にはかとなく吊るして長くつなぎ合わせた原稿で
幾重にも床近くまで重なっています。生原稿の紙風船は100個以上はあり、
どうか、打鳴も。そしてそこには、(音響)つかの色紙で、また紙風船や
はらの花が彩りと添えています。

Coccoさんは、こんな風に表現された空間をこうよんでいました。

四言靈展」と。(展示の詳細は17ページの“cocco CHANNEL”へ)

Coccoさんの展示では、この山陽道にも行列か!
駅前にも、JR、「主婦の友」目当てに店に行きました。
P.S.さて、今はもう大叔母で、もう喜んでと音語りに
聞こえてゐるもの。実際に手写してるのは初めてのこと。

初日は天にくの雨、にもかかわらず、裏道の善光寺へ近くまで
30分かかるといいました。

毎日メインの整理券を配るところに、並んでくれた方全員に、いそ
かせにすすみますようにと、さうは気持で手渡しました。

ある日、遠く滋賀県から来てくれた人の前で券が終了してしまいました。
すると「私、千葉の方近くで暮らす」とその方に説いていた
女性が! それでなみと感じました。

行きななです。coccoさんやアーティストともお行儀がよくて
「気がいい人でした」と。朝早くから並んでらぶ迷惑にならないかと思ふ
と気にかけてから並ぶ人。の気持ちやてこへもの修女未ださんと。
あつい前の方をあつい前に見てるってとても丁寧でした。

展示を観てみると、知らないところがナーリで、面白かったです。

「まことに、生きの感情や、物事の本質についての言葉かとも思って
意識的聴くのをやめました。なんか逃げていたように思います。久しぶりに
このだけの機会をえていて、また聴きたいと思います。そして、キャラクターの
言葉と並んで、coccoさんの声に触れています。なんか素直に聴いてる
自分がいるのが不思議です。」

Coccoさん、ミシマ社さん、四部屋で丁寧に見てありがとうございました。